

会議録

会議の名称	第4回加西市元気なまちづくり市民会議
開催日時	平成29年10月15日(日) 午前10時00分～11時45分
開催場所	加西市役所 5階 会議室
議長の名 (会長 牧瀬 稔)	
出席及び欠席委員の名	
<出席委員>	
・久米澤 稔	・杉本 建人
・辰巳 浩輝	・橋本たへ子
<欠席委員>	
・小川 麻弥	・河尻 悟
	・多田 安洋
	・牧瀬 稔
	・立花 莉絵子
	・吉田 廣
	・高見 めぐみ
	・谷川 賢次
傍聴者の人数	
一般：なし	報道機関：なし
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・理事(地域創生担当) 須貝 正俊	
・ふるさと創造部長 森井 和喜	
・ふるさと創造部人口増政策課長 藤後 靖	
・ふるさと創造部人口増政策課課長補佐 小菊 啓靖	
・ふるさと創造部人口増政策課係長 小林 和敏	
・ふるさと創造部人口増政策課主任 菅生 綾子	
・ふるさと創造部人口増政策課主任 岩野 裕之	
・ふるさと創造部人口増政策課まちづくり専門員 小山 映	
1 議事	
(1) 外部評価の意見等について	
(2) 加西市行財政改革プラン(素案)について	
(3) その他	
2 会議資料	
外部評価の概要(平成28年度分2次評価)、総合計画施策評価一覧、加西市行財政改革プラン(素案)	
3 会議の経過	
⇒別紙「第4回加西市元気なまちづくり市民会議の経過」のとおり	

(別紙) 第4回加西市元気なまちづくり市民会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	開会
会長	<p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忙しい時期にご出席いただきお礼申し上げます。最終回の今回は報告が中心になるが、よろしくお願ひしたい。
	2 議事
	<p>(1) 外部評価の意見等について 事務局から説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊は、地域ではよくやっけていただいている。 ・住民自治とは何か、共通理解が得られていないきらいがある。各地区のふるさと創造会議で住民・行政が議論して共通理解のうえ取り組めば、より実り多いものになると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創造会議の取り組みには地域で格差があるので、住民自治とは何か、市の考えを丁寧に説明していきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・シェリー・アーンスタインの「住民参加の梯子」では取り組みを8段階に分けている。たしか4段階目で意見を言うなどの例が示されており、住民自治の参考にするとうい。 ・地域おこし協力隊の評価の話は、4人で6人並となると隊員は1.5倍頑張ることになるので、目標値を変える方法もあるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・25～34歳の女性就業率が上がっているとのことだが、市内でも待機児童が出ている状況にあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5歳児の保育料無料化に伴い、3歳児未満を預ける人が多くなったため生じている。また近隣から公立の多い加西に引っ越して、子どもを預けるケースも出てきている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・Jアラートの加西市の対応は、どうなっているのか。 ・危機管理課を窓口として市役所には即時に伝わるしくみとなっているが、市民への伝達は現状では防災ネットか文字放送での対応となっている。市が直接市民に伝える方法については、検討中ということでご理解いただきたい。(注 緊急速報がエリアメールで携帯電話には配信される。)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回からは、Cとなったものは全て議論できるようにしたい。女性の就業率は市外での就業もあるので市内での就業の向上がわかるとよいのではないか。ふるさと創造部所管分で低い評価のものが目立つので、頑張ってほしい。
	<p>(2) 加西市行財政改革プラン(素案)について 事務局から説明</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・病院事業の繰出金が12億円近くあるが、病院はなくしてはならない。サポーターの団体もでき応援していきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・医師数の減少により平成28年度は病院への繰出金が予定を上回り、結果的に財政調整基金の取り崩しが増えた。少し長く入院できる地域包括医療体制を充実していく方向だが、泌尿器科の医師が加わるほか、人員面では不補充によるスリム化を図っている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・医師不足が原因とのことだが、急にやめた医師がいるようだ。 ・神戸大学から医師を送っていただいているが、後任の医師がない状況である。 ・他の病院に移られる方もあるように聞いた。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで加西病院は急性期病院としてやっけてきたが、県の病院の計画では、より大きな病院が担う役割分担となり、このような大病院に移られる方も出ている。
委員 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター団体の会費は500円だが、市民全体の盛り上げが必要である。 ・加西病院はつぶすわけにはいかない。市としてどういう形にするのか明確にする

会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要があり、繰出金を2.5億円プラスした意味を考えていく必要がある。 ・ 4、5年の努力を重ねて行けば、改善される面もあると思う。 ・ 市民に当事者意識を持たせることが大切である。例えば年間一人あたり5千円ずつ多く出してもらったことになるのか、自分事ととらえられるような具体的な数値を示すことが考えられる
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①これ以上の人員削減はもう限界とのことだが、更に減らす目標となっている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②28年度は、8億円歳入が減少しているが、今年度の状況はどうか。 ・ ①は、なかなか厳しい状況だが、人員の適正配置と業務配分により対応したい。 ・ ②は、四半期毎等の状況は把握していないので、決算にならないとわからない。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を達成できないと、財政調整基金の取り崩しということになる。 ・ 最終的には取り崩しという事態もありうる。平成16年度に大きな財政危機状態となり、以降、行財政改革を進めている。かなり改善されてきたが、基金残高は近隣市と比べ少ない。突発的な出来事がなければ計画どおり進むとみられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の耐震化など投資的事業に取り組むことは避けられない。財政が厳しい中、大型プロジェクトにはしっかり計画を立てて進めるべきである。 ・ 財源捻出策として経費削減や職員給与も工夫が必要だが、まずは事務量が増えてきたことを市民に理解してもらわないといけない。例えば専門的な部分は外に出すのがよいが、委託が必要なことはわかりにくいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の職員が頑張っていることを分かってもらう工夫として、例えばインターンシップ的に公務員を経験してもらって、窓口に実際立ってもらって制度も考えられる。 ・ 投資的事業は、費用をかけた以上に戻ってくるということが大切だと考えられるが、一般的に行政ではあまり計算されておらずチェックが必要である。「浪費」から「投資」の思考にいかないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員数は限られているが、専門的な人材の養成が重要だと感じている。投資の一つの方法として、どんどん研修して人材を育てていくべきだと思う。
会長 副会長 事務局 副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人あたりの生産性を高めるには研修が一番である。 ・ 投資の費用対効果の検証は十分されているのか。 ・ 必ずしもそうではないところがある。 ・ 民間と発想が違う部分があるように感じる。給与カットされると意欲低下を招き悪循環になっていく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かにモチベーションが下がっていく。職員給与は人事院勧告に基づくものと市が独自にカットするものがあるが、独自カットは意欲低下を招くものになる。
副会長 会長 副会長 会長 委員 会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員減、給与カットのなか、仕事が増えるという状況かと思う。 ・ ブラック企業である。 ・ しかし市民はそうは見えていないと思う。 ・ 春日部市では職員満足度調査により、能力・やる気アップに結び付けている。 ・ 職員は市の顔だと思うので、資質と士気の向上は大事なことである。 ・ 素案に対して今日出た意見を基に事務局で整理していただき、行財政改革プランの最終取りまとめについては、会長に一任とさせていただきたい。 ・ 今後の課題として、行財政改革プランの読者は誰かを考えておく必要があると思う。ページ数も、半分にするとかが考えられる。 ・ PDCAを回していくうえで、データ収集と分析をしっかりとやっていくことが大切である。 ・ 他団体との比較は、人口1万人あたりの数字等を入れるとわかりやすくなる。
	<p>(3) その他</p> <p>事務局から、主な論点と対応、答申書の対応状況、北播4市の比較を説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の能力発揮については、高齢者大学で教養を深める他、その技術を活かしたい。小野市は70歳まで就労できるようになっているが、能力を活かせるしくみと地域に貢献することに汗をかいていく気運を醸成していかないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化の一方で、地域を支えて希望を抱いて取り組んでことが大切である。

<p>会長 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加西の小・中学生は町で出会う人に挨拶ができる等モラルが高いと感じている。 ・加西のすごいところは、地方都市でなくグローバルネットワークと直結している土地柄にある。 ・田舎なのに現在のメガバンクの支店のルーツとなる北條銀行が明治24年に設立され、その後合併を繰り返して今に至っていること、そして市内の中堅企業が世界と直結している町だと思う。 ・松下の工場が戦前からあったのは、恐らく人材が集まる場所、交通の要衝であったところにあるのではないか。 ・加西を代表する会社の社長と話していて、市内にいい会社が揃ったのは、当時、世界の一流企業の技術が、三洋電機を通じて協力会社に流れ伝搬したことにあると気がついた。その後も独自の努力をされ今のグローバル展開につながったわけで、ものすごい土地柄だということに次世代を担う人たちに知って欲しい。 ・人材のまち加西として、しっかりアピールしていくとよい。 ・人を減らし人がいなくなると改革に手が回らなくなるので、人がいる間に育てておかないといけない。人が少なくなってから即戦力となる人材を入れてもなかなか追いつかないと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊は人数ではなく、それぞれ違う活動内容の中身を見ていただきたい。みんな頑張っているのでも市の期待には十分役立ったと感じてもらえるとありがたい。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプットでなく、アウトカムの中身で見ることが大切ということだ。
<p>副会長</p>	<p>閉会 副会長あいさつ</p> <p>今回で終了となるが、貴重な意見をいただき、委員の皆様には感謝申し上げます。昨年と比べると3回が4回となり、より充実したものになったと思う。2年間の議論の中から、何か達成感を持っていただければありがたいと考えており、お礼申し上げます。</p>